

平成25年度「新たな公共プロジェクト」対話の場のテーマについて

本年度の「新たな公共プロジェクト」の対話の場のテーマについては、以下の視点を踏まえ、次の3つを区から提示する。

1 テーマ選定にあたって考慮する視点

- (1) 文京区基本構想の実現に資するもの。
- (2) 文京区でニーズのあるテーマであり、既存の枠組みを超えて対応することでより高い効果が期待できるもの。(全国的にもニーズのあるテーマであるとなおよい。)
- (3) テーマに対して区民の関心が高く、新たな公共の担い手が事業化のアクションをする際に地域の理解や応援が得られやすいもの。
- (4) 新たな公共の担い手が事業化を進める過程(試行段階、成長段階など)において、文京区の社会資源を有効に活用できるもの。
- (5) テーマに対して事業化がイメージしやすく、起業ニーズが考慮されているもの。

2 対話の場のテーマ

No	テーマ	概要
1	家庭を支えるご近所力 ～家族構成の変化に対応するには	<p>単身世帯、ひとり親世帯、高齢者のみの世帯の増加など家族構成が変化してきている中で、子育て、教育、介護、健康、防犯、災害対策等社会生活を営んでいくうえでの身近な課題に対応していくためには、各家庭による自助を前提としつつも、ご近所による助け合いなどのインフォーマルな関係を築いていくことも重要となっている。</p> <p>しかし、かつてのようなプライバシー全共有のようなご近所付き合いは、現代社会において望まれない中で、単独の家庭では解決することが難しい課題を、「スープの冷めない距離」のご近所が、お互いの選択やプライバシーを尊重しながら、支え合える仕組みをつくる。</p>
2	スポーツから始まるコミュニティづくり	<p>地域のつながりの弱さが指摘されているが、人と人のつながりは、単に人がいるだけでつながるのではなく、何かを一緒に行う、共に努力することから生まれることが多い。</p> <p>そこで、スポーツの人と人をつなげる機能に注目し、子どもと大人、子ども同士、大人同士、家族と家族など、スポーツを通じて地域のつながりを生み出す仕組みをつくり、スポーツの担い手の拡充や、区民の健康増進にも貢献する。</p>
3	まちの資源を活かした地域ブランディング	<p>文京区は歴史あるまちで、エリア毎の特色や文化もあり、豊富な資源が揃っている。これらの資源を効果的に活用し、産業振興等まちの活性化に結び付けていくことも重要である。</p> <p>そこで、地域の歴史、文化、資源を活かした事業や地域活動を生み出すことによって、まちの魅力と可能性を発信し、地域をブランド化する。</p>